



骨髄提供後、左中殿筋内に血腫を認めた事例について

公益財団法人日本骨髄バンク
理事長 齋藤 英彦

3月下旬に骨髄バンクを介して骨髄提供した30歳代の男性が提供2日後に退院されましたが、4日目から採取部位の痛みが増強し、5日目には左臀部の腫脹、疼痛悪化、大腿にかけての痺れが現れ、歩行困難になったため採取施設を受診し、緊急入院となりました。

CT検査で上殿動脈(じょうでんどうみやく)の仮性動脈瘤(かせいどうみやくりゅう)と、それに伴う中殿筋内出血が確認されました。その後、貧血症状が進行したため、入院3日目に動脈塞栓術を実施しました。現在、貧血症状は改善傾向にあり、全身状態も安定しているとのことです。

日本骨髄バンクでは非血縁者間骨髄採取認定施設に対し、緊急安全情報を発出し、注意喚起を行いました。また、調査委員会を設置し、原因について調査を行うこととしています。

調査結果が判明した際には、あらためてご報告します。

<参考>

◆中殿筋とは

股関節のまわりの筋肉で、骨盤の骨と大腿骨を結んでいる。起立、歩行、片足立ちの際のバランス保持にも関わっている。

◆動脈塞栓術とは

動脈にカテーテルを入れ、出血部位まで進めて止血する方法。

<報道に際してのお願い>

- ・プライバシー保護のため、ドナーや施設についてこれ以上の情報はお伝えできませんのでご了承ください。
- ・骨髄バンクでは本件も含め、ドナーのリスク情報について情報開示に努めています。ただし、重大な事態が起こる危険性が必要以上に強調されますと、現在進行中のコーディネートがキャンセルになるなど、患者さんの生命に関わる可能性もあります。慎重な報道をお願いします。

■本件に関するお問い合わせ:

公益財団法人 日本骨髄バンク ドナーコーディネート部:
折原、橋下、川原

電話:03-5280-8111(代表)